

1. 件名：「JMTR二次冷却システムの冷却塔倒壊に係る対応について」に関する面談
2. 日時：令和元年10月31日（木）15時00分～16時05分
3. 場所：原子力規制庁 2階会議スペース

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設等監視部門

白井上席監視指導官、福吉主任監視指導官、木村原子力運転検査官、松本主任監視指導官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

大洗研究所環境技術開発センター 材料試験炉部次長 他3名

5. 要旨

(1) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）から、「JMTR二次系冷却塔の冷却塔倒壊に係る対応状況について」に関する説明があり、以下について確認した。

- ・ 二次災害防止のため、現在倒壊した冷却塔のがれき等の撤去作業を実施中であり、散乱物やスレート材等の撤去を行っており、原因究明のため、撤去物は保管管理している。がれき等撤去後には、冷却塔の基礎部分のみが残る予定である。
- ・ がれき等撤去と並行して原因究明を実施しており、冷却塔倒壊に到った要因として、①冷却塔の強度不足、②冷却塔の設計応力を超える外力の発生および③冷却塔の設計で考慮していない外力の発生、の3つの観点で調査を進めている。その中で、過去に遡った気象観測データの調査や、がれき等撤去でサンプリングした木材の一部を採取し、貫入試験による腐食や機械特性等、冷却塔の損傷及び劣化状態について分析等を行っているところ。現在確認できた範囲では、倒壊した冷却塔の木材の筋交い部（金物補強箇所）や構造部材の接合部に劣化が進み、強度が弱くなっていることが確認されている一方で、今のところUCL冷却塔には明確な劣化兆候は確認されていない。
- ・ 9月26日の面談において、冷却塔倒壊の原因及び対策をとりまとめた報告書（第2報）について11月末を見込みとして提出予定であったが、木材の損傷・劣化状態を確認するための試験片の切り出し及び作成等に時間を要しているため、12月中頃になる予定である。

(2) 原子力規制庁から、気象状況調査や過去の設計等を含め、現在実施している調査状況について、報告書（第2報）の取りまとめを待たずに、11月中に説明するよう伝えた。

(3) 原子力機構から、主旨を踏まえ対応する旨返答があった。

6. その他

配付資料

- (1) J M T R二次冷却系統の冷却塔倒壊に係る対応状況について

参考

- ※1 令和元年9月26日の面談

「J M T R二次冷却系統の冷却塔倒壊に係る対応について」に関する面談